

# 令和2年度各部事業報告

## 《総務部事業報告》

### I 理事会の開催

#### 第1回

日時 令和2年4月28日 書面開催による決議  
議題 介護事業統合に伴う組織体制について

#### 第2回

日時 令和2年6月5日 書面開催による決議  
議題 ○令和元年度事業報告及び決算報告の件  
○評議員会への提案の件  
報告 ○各理事の職務執行状況報告  
○渉外担当理事の職務執行状況報告

#### 第3回

日時 令和2年7月17日 書面開催による決議  
議題 ○理事の報酬額の変更の件  
○運営資金の借入申込の件

#### 第4回

日時 令和2年11月26日 10時00分～  
場所 特別養護老人ホームけいわ苑 会議室  
議題 ○経理規程の改定について  
○借入金の借換えについて  
○評議員会への提案について  
報告 ○定款第17条第3項の規定による理事長及び業務執行理事の職務執行  
状況報告  
○渉外担当理事及び各理事の職務執行状況報告

#### 第5回

日時 令和3年3月9日 10時00分～  
場所 特別養護老人ホームけいわ苑 会議室  
議題 ○役員報酬等に関する規程の改定について

- 経理規程の改正について
- 川口孝司児童福祉部長の退職に伴う特別功労金の支給について
- 理事候補者の推薦案について
- 評議員会への提案について

## 第6回

- 日 時 令和3年3月31日 10時00分～
- 場 所 特別養護老人ホームけいわ苑 会議室
- 議 題
- 令和2年度補正予算（案）について
  - 令和3年度事業計画（案）について
  - 令和3年度当初予算（案）について
  - 令和3年度啓和会組織体制の変更について
  - 理事長、業務執行理事及び各理事の報酬額の決定について
  - 東町のびやか保育園空調設備改修工事計画並びに工事に係る指名競争入札の実施、入札参加業者の選定及び入札諸手続等の理事長への委任について
  - 令和3年度介護用品等購入契約及び業務委託契約の締結について
  - 退職金制度の改定について
  - 苦情解決委員会及び入所検討委員会の第三者委員の承認について
- 報 告
- 定款第17条に基づく理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告
  - 介護事業統合後の状況報告

## II 評議員会の開催

### 第1回

- 日 時 令和2年6月22日 書面開催による決議
- 議 題 令和元年度事業報告及び決算報告の件
- 報 告
- 各理事の職務執行状況報告
  - 渉外担当理事の職務執行状況報告

### 第2回

- 日 時 令和3年3月23日 書面開催による決議
- 議 題
- 役員報酬等に関する規程の改定について
  - 理事の選任について
- 報 告 渉外担当理事及び各理事の職務執行状況報告

### Ⅲ 総務部の事業総括

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

令和 2 年度は、各部門共に新型コロナウイルス感染症対策が求められ、現在も対策を継続している。本会の利用者は、高齢者や児童、障がい者等、新型コロナウイルス感染症に対しての「最弱者」とも言える方々である。本会では、通常の感染防止対策に加え、以下の対策を実施した。

- ・面会制限、施設内外における行事の中止
- ・職員に対しての県外移動や交流等の行動制限
- ・やむを得ない理由での外出（県外・感染拡大地域）の際の『新型コロナウイルスに関する届出書』の提出
- ・定期的なお知らせ、啓和会だより等による注意喚起
- ・施設稼働の維持、確保の為に感染対策かかり増し支出増への対応
- ・介護施設、障がい者施設で勤務する職員への「令和 2 年度新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金（慰労金）」の迅速な申請・支給

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により、物事の在り方が大きく変わることが予想される。引き続き、感染拡大状況を注視し、大きな変化に乗り遅れることなく、柔軟に対応していく。

#### (2) 医療法人社団日新会との介護事業統合

更なる高齢者サービスの質の向上、大規模化による経営基盤の安定を目指して、系列法人である医療法人社団日新会の介護部門を令和 2 年 5 月に統合・吸収した。

介護医療院（定員 88 名）、介護老人保健施設（定員 29 名）、介護付有料老人ホーム（定員 16 名）、グループホーム（3 施設、定員合計 36 名）の 6 施設を本会高齢福祉部に統合・吸収し、事業所数は 24 事業所から 30 事業所となり、法人内での一日当たりの利用者数は最大で 880 名、職員数は 500 名を超える県内で有数の大規模な社会福祉法人となった。

統合により新たに介護医療院、介護老人保健施設、介護付有料老人ホームの 3 種類のサービスが加わり、施設系のラインアップが拡充することで、同一法人内で利用者のニーズに沿ったサービスを包括的に提供することが可能となった。施設間での入所調整や通所系サービスから施設サービスへの移行の選択肢が増え、きめ細かく対応することで稼働のアップに繋がっている。また、事業統合・吸収と同時に新設した『地域福祉連携室』は、総合相談窓口としての役割を果たすことが出来ている。加えて、外部関係窓口への営業活動を実施することで、55 件の申込みを獲得し、稼働のアップに貢献した。

経過措置として出向の雇用形態で引き受けていた職員に関しては、介護職員 57 名が令和 3 年 4 月 1 日より転籍し、本会の職員となる。介護職員についての転籍は完了したが、

看護職員の転籍がまだ完了していない為、統制力の強化の為にも令和 3 年度内に転籍を完了させる。

統合 1 年目の事業収支としては、計画を上回る見込みであり、事業統合・吸収の効果により、当初の目的である経営基盤を強化することが出来ている。引き続き、事業統合・吸収の効果の確認、収支状況の管理を行い、課題に対応していく。

### (3) 特別養護老人ホームけいわ苑未稼働部分 10 床の開所

人員不足により稼働することが出来ていなかった未稼働部分の 10 床を、令和 2 年 10 月より稼働させることが出来た。開所以来、高稼働を維持しており、目標である 96%を越える 96.4%の稼働を達成した。

また、未稼働のショートステイ 10 床に関しては、令和 4 年 4 月に転換し、特別養護老人ホーム 10 床として稼働する計画である。

### (4) 人材の確保、育成、定着を図る取り組み

人手不足の状況にあるが、広報活動を強化 (SNS の活用等) するとともに、職員紹介制度 (リファラル採用) の活用により、人材の確保に努めた。

新型コロナウイルス感染症の影響により養成校への訪問が出来ず、新卒者は、高齢福祉部の 1 名のみとなった。令和 2 年度を通しての入職者数は 39 名、内 20 名が職員の紹介による入職であり、年々紹介からの入職が増えてきている。紹介からの入職者は定着率が非常に高い為、今後も継続する。

また、技能実習制度を活用しての外国人労働者の受入れを実施している。令和元年 9 月にベトナム人技能実習生 2 名を特別養護老人ホームしょうぶ苑へ配属し、令和 2 年 2 月にはベトナム人技能実習生 4 名を特別養護老人ホームしょうぶ苑へ配属した。実習生 6 名全員が夜勤業務もこなす大きな戦力となり、実習生の技術指導を受ける真剣な姿勢は、指導者及び他の職員への良い刺激となっている。

技能実習生の受入れは、大きな成果をあげており、継続して実習生の受入れを実施していく。令和 3 年度は、ベトナム人技能実習生を特別養護老人ホームけいわ苑でも受入れる予定での準備を進める。

### (5) 働きやすい職場環境づくりの推進

ストレスが少なく、仕事の効率を上げることが出来るよう業務の平準化、長時間労働の是正やメンタルヘルス対策の推進等を進めた。また、医療法人社団日新会の介護事業を統合・吸収したことによる施設ラインナップの拡充は、職員にとっても就業場所の選択肢が増え、ジョブローテーションを活用してのキャリアアップを目指す職員にとって良い機会となった。

令和 2 年度の法人全体の離職率は 8.9%であり、前年度の離職率 8.1%よりも高い離職

率となった。高齢福祉部は7.4%と前年度よりも改善しているが、児童福祉部16.7%、障がい福祉部23.5%と高い離職率となってしまった。引き続き、働きやすい職場環境づくりに努め、離職率5%以下を目指す。

#### (6) 各種規程の見直し

医療法人社団日新会の介護事業を統合・吸収したことによる大規模化、そして、法人開設から20年以上が経過し世代交代の時期にある中で、各種規程が実態とそぐわなくなってきた。そこで、この大きな変化に対応する為、旧態依然を脱却し、様々な部分を刷新しなければならないと考え、作業に取り組んでいる。

介護事業統合・吸収に際しての就業規則の見直し、将来を見据えての役員報酬規程の改定、そして、職員がより安心して長く働くことが出来るよう職員退職金規程の見直しを行った。

#### (7) 適正な法人会計・経理事務の実施

経理規程に沿った適正な事務に努めているが、財務データの分析と提供を迅速に行うことが出来なかった。財務分析が出来ていない為、中・長期資金計画の策定が出来ていない。建物・設備の老朽化が進んでいる為、修繕計画を含めた中・長期資金計画の策定をしなければならない。

また、各種会議に稼働状況、収支状況等のデータを提供し、課題の抽出、問題解決へ繋がるよう努める。

#### (8) 業務効率化、施設老朽化に対する対応

インターネット環境が無い事業所（グループホームひびき、『至福の郷』グループホーム東町、グループホーム夢の森）を整備し、特別養護老人ホームしょうぶ苑の電話設備入れ替えによって業務の省力化を図った。

また、老朽化した東町さつき保育園のエアコンを入れ替え、特別養護老人ホームしょうぶ苑の車両1台を馬主協会の助成金を活用して入れ替えた。

大きな設備で点検を実施していないケースがある為、点検が必要か検討した上で定期点検一覧表を作成し、設備の長寿命化を図る。

## 《公益事業部事業報告》

### I 公益事業部の事業総括

平成 28 年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ「地域における公益的な取り組み」の実施が、法人の責務として位置づけられた。

こうした中、当法人においてはいち早く「公益事業部 公益事業課」を組織として設置し、運営方針及び重点目標に基づき、社会情勢の変化を見据え、既存の社会保障制度や社会福祉制度では対応が困難な地域ニーズの把握に努め「地域における公益的な取り組み」の実践を通じて地域貢献事業の充実を図ってきたところである。

しかし、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していた認知症カフェ、子どもたちを対象としたワークショップ、各種行事への参加をすることが出来なかった。また、セレクトショップ&ギャラリーエーコードは、就労継続支援 B 型事業所を併設している為、利用者及び職員への新型コロナウイルス感染症予防の為、令和 2 年 4 月より営業を自粛している。

コロナ禍の中でも現在実施している公益的取り組みの他、当法人が実施出来る公益的取り組みについて、関係機関・団体等から情報を収集し、出来ることを増やしていくことが今後の課題である。

### II 事業報告

#### ①社会福祉法人による利用者負担軽減制度事業

実施時期：通年

実施場所：特養しょうぶ苑（従来型・ユニット型）

実施主体：啓和会

実施目的：低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割に鑑み、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。

対 象：施設利用者

#### ②ボランティアルーム貸出事業（喜多方地区保護司会事務所として）

実施時期：通年

実施場所：特養しょうぶ苑 ボランティアルーム

実施主体：啓和会

実施目的：喜多方地区保護司会の事務所として施設の一部を無償で貸出し、保護司の活動に資することを目的とする。

対 象：喜多方地区保護司会

### ③公益販売所

実施時期：通年（令和2年4月下旬より営業自粛中）

実施場所：セレクトショップ&ギャラリー エーコード

実施主体：啓和会

実施目的：他法人の品物も含めた授産品の販売や地域住民が交流出来るイベントの開催、福祉的学びの場の提供等を通じて、地域交流、喜多方駅前地域活性化等を図ることを目的とする。

対 象：地域住民及び一般市民

#### （参考）

○公益事業関連特別支出

・利用者負担軽減制度事業 366,471 円

## 《高齢福祉部事業報告》

### I 高齢福祉部の事業総括

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症から利用者及び職員の命を守ることを重要課題とし、対策を実施した。職員には、重症化リスクのある利用者を受入れていることを再三に亘り周知し、節度ある行動を求めている。

具体的な取り組みとしては、面会制限によるオンライン面会、パーテーションの設置、新しい生活様式に則った会議及び行事の開催、利用者及び職員の検温、定期的な注意喚起等を実施している。

新型コロナウイルス感染症の影響としては、営業活動及び実態調査の制限による稼働の確保、施設見学及び職場体験の制限による人員の確保が困難であった。そのような影響がある中でも、高齢福祉部職員全員が、感染症に対する高い意識を持ち行動することで、昨年度を上回る稼働を達成することが出来た。

#### (2) 医療法人社団日新会の介護事業統合・吸収の効果

介護事業統合・吸収による新規事業所と既存事業所が連携することで、医療的ケアを希望する家族に対して、適切なサービスを提供することが出来ている。また、施設ラインナップ拡充によるニーズに沿った適切なサービスの提供、総合相談窓口として新設した『地域福祉連携室』と各施設の連携により稼働率を向上させることが出来た。

しかし、重点目標としていた新規事業所と既存事業所間の人事交流に関しては、各自事業所の人員配置状況や業務内容の把握に留まり実施することが出来なかった。令和3年度は、大規模化のメリットを更に活かす為にも、積極的な人事交流、キャリアアップの為の定期的な人事異動、事業所間の連携強化、介護サービスの均一化を図り、質の向上に努める。

#### (3) 特別養護老人ホームけいわ苑の1階北ユニット10床の開所

高齢福祉部の大きな課題であった特別養護老人ホームけいわ苑の未開所部分10床を令和2年10月より開所することが出来た。開所後の稼働についても、目標を上回るスピードでの入所調整を行い、目標96%に対し、96.4%を達成した。

#### (4) 満足して頂けるサービスの提供

利用者の安心と家族の思いに寄り添いながら、利用者・家族・地域の方々の要望、期待に応えることが出来るような福祉・医療サービスの提供に努めた。利用者の身体状況に合った適切な施設、最適な環境でのサービスを提供することが出来るよう、事業所間で情報を共有し、連携を取っている。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用者に喜んで頂ける機会を十分に提供することが出来なかった。コロナ禍の中でも出来ることを一つずつ増やしながらか満足して頂けるサービスの提供に努めなければならない。

#### (5) 職員の定着・育成

令和2年度の離職率は7.4%であり、前年度は7.9%、前々年度は13.8%であった。人事考課のフィードバック面接を通して、職員一人ひとりがしっかりとしたキャリアパスを描くことが出来るよう取り組んでいることが離職率の改善に繋がっている。

職員の資質、意欲の向上を図る為にも継続して面接の機会を設け、離職率5%以下を目指す。

## II 各事業所事業報告

### 1. 特別養護老人ホームしょうぶ苑

#### (1) 事業報告

- コロナ禍における面会の問合せがあり、オンライン面会を実施した。相談員会議に関してもオンライン会議での開催とし、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めている。今の状況が暫く続くことが予想される為、引き続き、オンライン会議を勧めている。法人内だけではなく、各関係機関と情報を共有し、感染拡大に努める。
- 入所申込者が減少している為、事業所を訪問し、現在の待機者数、施設の特徴、空床数を伝え、申込者の確保に繋げることが出来た。また、2月には、入所申込者全員に追跡調査を実施し、情報を整理した。今後の入所判定委員会に反映させる。
- 重点目標であるリーダーを中心としたチームづくりに関しては、概ね出来ている。しかし、リーダーにより力量の差がある為、一人ひとりに合わせた指導を今後も継続する必要がある。
- コロナ禍の中での看取りの説明や面会等、今までと変更した点についてのマニュアルの見直しを行った。看取りに限らず、面会制限中は特に家族との連絡を密にし、安心した生活を続けることが出来るような配慮が必要である。
- 栄養課では低栄養状態利用者の栄養改善に取り組み、同じ低栄養者でも異なる栄養障がいの方には、個別に対応している。また、終末期利用者への対応、食事介助を実施している。引き続き、多職種と連携し、利用者の状態に沿った食事の提供を行う。
- ベトナム人技能実習生の受入れに関しては、6名全員が大きな問題も無く、進捗状況は良好である。しかし、日本語習得レベルに個人差がある為、再度、教育方法を見直す必要がある。
- デイサービスセンターに関しては、1日の利用者20人以上を目標としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、20名以上を維持することが出来なくなってしまった。利用者家族の新型コロナウイルス感染症拡大地域からの帰省等で利用を控えていただくケースや、入院等が重なり目標を達成することが出来なかった。

#### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、従来型 95.9%、ユニット型 97.6%、しょうぶ苑全体で 96.6%であった。空床期間の短縮に努め、しょうぶ苑の目標である 96%を上回ることが出来た。また、現在取得している加算を維持する為の要件を満たしている。

デイサービスに関しては、年間を通しての稼働率は、72%であり目標を達成することが出来なかった。関係機関への営業活動、利用回数増や新規依頼への迅速な対応を行ったが、コロナ禍の利用制限等により目標を達成することが出来なかった。包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を密にし、目標稼働の達成を目指す。

## 2. 特別養護老人ホームけいわ苑

### (1) 事業報告

- コロナ禍の中、利用者の家族や利用者が安心して利用継続出来るよう、情報の提供や共有を図る為、各部署と協力しオンライン面会を実施した。活用する家族が増えている一方で、土日祝日の実施や時間外での実施の要望があり、対応出来ていないケースがある。
- 重点目標である早期の入所、退所の際のサポートに関しては、速やかな入所及び退所の手続きを行うことが出来ている。それに伴い、空床の期間も出来る限り短縮することが出来た。
- 稼働目標達成に向けて各階の副主任、ユニットリーダーと協力し、速やかに実態調査を実施することが出来た。速やかな入所に向けユニットリーダー全員が実態調査を行うことが出来る体制を継続する。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により面会出来ない為、家族も心配している状況である。家族の心配を解消する為、手紙や電話での近況報告を行った。今後も良好な関係を築くことが出来るよう定期的に連絡を取り、安心して頂けるよう対応する。
- 感染症予防対策の徹底に努め、利用者、職員共に感染症の発生は無かった。嘱託医、協力医療機関との連携を図り、面会制限を実施している。引き続き、手洗い、うがいの徹底に努め、感染症の発生を防止する。また、国や県の動向を把握し、適正な対策を講じる。
- 看取りの振り返りを行い、介護側の不安等を把握することが出来た。しかし、コロナ禍の為、計画していた研修や勉強会を実施することが出来なかった。研修や勉強会の開催が無く不安に思う介護職員に対し、個別でフォロー出来る体制を整えていく。
- 栄養課の重点目標であるニーズに合わせた栄養ケアプランの作成に関しては、食事摂取の様子を記載したところ、家族から「日頃の様子がよくわかる」と好評であった。また、安心・安全な食事を提供する為、配膳時間にラウンドを実施し、衛生管理について介護職員への指導を実施した。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、93.2%であった。令和2年9月、高齢福祉部内の協力により職員を確保し、施設内研修後10月1日より1F北ユニットを開所することが出来た。開所により10床の増床となったが、開所以降の稼働率は、目標の96%を越える96.4%を達成出来ている。目標を達成することで安定した収入を確保し、経営基盤の安定化へ貢献することが出来た。

引き続き、他機関、病院等と連携し、広報活動を行うと共に家族からの紹介、相談にも丁寧に対応する。また、空床の発生に備え、次期利用者の選定、受入れを早期に行い、空床期間の短縮を図る。

### 3. 特別養護老人ホームいちょうの木

#### (1) 事業報告

- 地域貢献に対する意識を高く持ち、利用者の選定に関しては、本人、家族、ケアマネジャーの状況を配慮した上で検討し、空床後に最短の期間で入所することが出来るよう努めた。結果として、入所後も感謝の言葉を多く頂いている。
- 地域の現状を把握する為の手段として、湯川村役場、地域包括支援センター、ケアマネジャーと連絡を取り合うことで、情報を頂けるようになり、協力体制を得ることが出来ている。地域の方との関りに関しては、新型コロナウイルス感染防止の為、関わる機会を持つことが出来なかったが、電話にて意思疎通を図り、良好な関係を継続出来るよう努めた。
- 利用者が望む暮らしを実現する為、24時間シートを作成し、ユニット会議や担当者会議で活用することで、定期的な見直しを行うことが出来た。引き続き、情報の共有とケアの統一を図る。
- 終末期の利用者家族との信頼関係づくりにおいて、面会が制限されている中での対応を検討しながら、こまめな状態の報告を行い、不安無く最期を迎えられるよう努めた。コロナ禍での面会制限下での終末期にある利用者について、毎日のお便りの他、状態に変化があった場合は、家族へ情報を提供し、信頼関係の構築を継続する。
- ニーズに合わせた栄養ケアプランを作成し、食事を通して季節感や楽しさを感じることが出来るような行事食やクラブ活動を実施することで、利用者を楽しんで頂いている。
- ショートステイに関しては、居心地の良い環境づくりと共に、それぞれの要望に沿った支援に努め、在宅生活の安定に繋げることが出来ている。引き続き、家族の要望（ケアプラン）に沿ったサービスの展開を図り、安心の提供に努める。

#### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、98.8%であった。各部署が地域貢献を意識し、空床期間の短縮を目指した結果が高い稼働に繋がったと思われる。

しかし、ショートステイに関しては年間を通しての稼働率が、36.3%と目標を大幅に下回ってしまった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、目標を達成することが出来なかったが、徐々に登録人数が増えてきている。本入所の稼働アップに繋げる為にも、ショートステイ利用者受入れに対する意識の向上、サービス向上に向けた内外部研修を取り入れ、職員間で共通認識を持って業務に当たることが出来る環境づくりが今後の課題である。

#### 4. 介護医療院いりさわ

##### (1) 事業報告

- 医療・福祉機関に対しての広報活動を実施し、連携を取ることで利用者の紹介があり、稼働を上げることが出来た。引き続き、医療・福祉機関との連携を密にし、利用者の相談、紹介には速やか、かつ丁寧に対応することで稼働の安定に努める。
- 地域住民への広報活動に関しては、コロナ禍の為に実施することが出来なかった。新型コロナウイルス感染症が終息した際には、介護教室等を開催し、介護医療院をアピールしていく。
- 職場環境改善に取り組み、働きやすい、働きがいのある職場づくりの為に、業務マニュアルを作成している。引き続き、業務マニュアルを作成し、介護医療院としての業務の統一を図る。
- 職員同士の報・連・相が十分に出来ているとは言えない現状がある。職場環境の改善、離職の防止の為に報・連・相の充実が今後の課題である。
- 人材の定着に関しては、新人職員の指導方法を見直すことで、退職者を減らすことが出来ている。また、人材育成の為に、毎月研修会を開催している。研修会は引き続き開催し、研修で習得したことを現場で活かすことが出来る体制を整える。

##### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、93.5%であった。上半期の稼働率は、94.4%であったが、10月、11月と死亡退所が続き、90%まで落ちてしまった。1月からは利用者を増やし、3月の平均稼働率は、96%まで戻すことが出来ている。

近隣の医療・福祉機関からの問合せや紹介により、稼働は徐々に上がってきている。満床を目標とし、受入れ体制を整える。

#### 5. 医療機関併設型小規模介護老人保健施設ハートランドケア東町

##### (1) 事業報告

- 法人内の居宅介護支援事業所や地域福祉連携室と情報共有し、入所へ繋げることが出来た。また、在宅復帰者の支援についてカンファレンスを行い、多職種で連携することで再度、方向性を確認し合うことが出来た。引き続き、各居宅介護支援事業所や地域福祉連携室と連携し、在宅復帰率を上げる。
- 重点目標である近隣市町村の居宅介護支援事業所との関係強化に関しては、新規の居宅介護支援事業所や他施設からの紹介に対して、要望に沿った対応をしたところ、続けて紹介を頂くことが出来た。限られた居宅介護支援事業所ばかりではなく、他の居宅介護支援事業所や病院等からも紹介を頂けるよう地域福祉連携室と連携し、広報活動を実施する。

- 職場環境改善に取り組み、働きやすい、働きがいのある職場づくりの為、職員の個別面談を実施し、各個人の現状を把握することが出来た。新体制となり主任を中心に業務を行い、職員一人ひとりとの関わりを増やすことで現状の把握を行ってきたが、業務の改善にまでは至っていない。現状を考慮しての業務の改善が今後の課題である。

## (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、94%であった。上半期は、冬期間利用者の在宅復帰があった為、在宅復帰率・在宅療養支援等指標 20 以上を維持することが出来た。しかし、下半期は、在宅復帰者がいなかった為、指標 20 以上を維持することが出来なかった。

在宅復帰者は増えてきているが、冬期間に集中している。通年で在宅復帰者を増やす為、居宅介護支援事業所や地域福祉連携室へ働きかけ、指標の維持を目指す。

## 6. 介護付有料老人ホームハートランドケア東町

### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、買い物や家族との交流が出来なかった。買い物は感染予防対策を徹底した上で職員が代行し、面会についてはリモート面会や電話での対応を実施した。
- 新型コロナウイルス感染症対策の長期化に伴い、利用者の状態変化が家族に正確に伝わっているかが課題である。新しい生活様式での家族交流や、個人の生活ニーズの充足を図っていかなければならない。「出来ない」ではなく「どのようにして実現出来るか」を考えていく。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策の為、苑外活動は出来なかったが、出掛けた気分になれるよう職員が工夫しての行事を開催した。模擬遠足やオンラインデパート、出前、フロアでパンを焼いてパン屋の気分を味わって頂いた。
- 法人内居宅、地域包括支援センター、病院等からの新規申込みがあった。法人内で稼働状況を共有出来たので、地域福祉連携室や法人内居宅からの問い合わせがあり、申込みにつなげることが出来た。申込があっても入所に繋がらないケースがある為、施設選択の差別化を図り申込者を獲得する為、地域福祉連携室との連携を強化する。
- 介護主任を中心に職員間のコミュニケーションを取ることは出来たが、専門職を交えての会議の時間を取る事が出来なかった。施設の運営から個人のニーズに至るまでの様々な検討を、専門職を交えて実施する。

## (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、95.7%であった。急な退所があっても次の利用者を案内出来るよう、日頃から申込者の状況把握に努め、目標を達成することが出来た。

申し込んでも施設の特徴と料金等の面で入所へ繋がらないケースが多い。有料老人ホームのニーズが高い申込者を獲得する為、地域福祉連携室との連携を図っていく。

## 7. グループホームやわらぎ

### (1) 事業報告

- 利用者の高齢化に伴い、体調の変化が多く、救急搬送されるケースもあった。観察力を上げる為、勉強会を開催し、実践練習を実施した。突発的なことがあると慌ててしまいがちであるが、周りの利用者へ動揺を与えないスムーズな対応を心掛けた。
- 基礎疾患を抱えている利用者も多く、食材や調味料も配慮したものの使用を継続している。メニューにも偏りがなく目でも楽しむことが出来るよう心掛けているが、臨機応変な対応が出来ない場面もあった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、茶屋の開催や地域行事への参加が出来なかった為、広報誌にて事業所の紹介を地域に回覧した。今後も直接的な交流が困難になることが予想される為、広報誌の回覧、電話連絡を継続し関係性の構築に努める。
- 地域を巻き込んだ「やわらぎ夏祭り」の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は、事業所単独での開催とした。外出自粛の為、少しでも季節行事を楽しんでもらえるような雰囲気づくりや内容に工夫を凝らしている。
- 目標である正しいラジオ体操の実施に関しては、利用者・職員共に毎日取り組み、継続出来ている。今後も苑外活動の自粛は予想される為、体操等を毎日継続し、身体機能の維持に努める。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、98.6%であった。

地域福祉連携室紹介からの入所もあり、申込者も少しずつ増えている状況ではあるが、急ぎでないケースもある為、意向調査を行い、スムーズな入所へ繋げる。

## 8. グループホームあじさい

### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、外部との積極的な交流を持つことが出来なかった。利用者に関しては、面会は制限中であるが、家族との連絡を密にし、関係性が途切れることのないよう支援した。

- 積極的な外出支援は出来なかったが、受診時等に車からの風景を見ていただく等、気分転換を図った。事業所内で楽しめる行事を増やしていかなければならない。
- 重点目標としていた言葉遣いや声掛け、認知症に関しての勉強会に関しては、上期は開催出来たが、下期は開催することが出来なかった。職員の資質向上の為にも、定期的開催する。また、ノロウイルスの研修を事業所内で開催し、感染症への対応力向上を図る。
- 緊急時の連絡体制に関しては、日頃から利用者の状態を観察し、普段と違うことがあればかかりつけ医や家族へ相談し、状態の変化を共有することが出来た。
- 支援方法の統一化に関しては、対応方法について申送りが不十分な場面もあり、統一することが出来なかった。職員間で話し合う時間を確保することが出来るよう業務調整を行っていく。

## (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、92.9%であった。

新規利用者の選定までに時間がかかってしまい、空床期間が長くなってしまった。利用者の退居の見通しが立った時点で、待機者家族へ連絡を取り、早期に現時点での入居意向を確認することで、空床期間の短縮に努める。

## 9. グループホーム東山しょうぶ苑

### (1) 事業報告

- 生活リズムの中で、自立支援しやすい環境を整え、職員会議や申送りを通して自立支援の意義を伝え続けたことで、職員の捉え方の差を縮めることが出来た。家族からの自立支援を望んでいる声や、感謝の言葉もその都度伝えている。
- コロナ禍でも施設内の壁に季節や行事に合わせた飾りつけを行い、楽しんでもらえるよう努めた。レクリエーションを通し工作等の手作業や毎日のラジオ体操、そして、令和2年度は「東山しょうぶ苑大運動会」を開催し、利用者の活躍、笑顔を見ることが出来た。
- 副管理者と協働し、職員間の関係性に配慮している。常に職員とのコミュニケーションを図りながら、些細なことでも相談、話しやすい環境づくりに努めた。結果として、全職員が落ち着いて、一人ひとりの利用者に関わることが出来ている。
- 職員一人ひとりの特性を活かし、責任を持って業務を遂行してもらうことで、達成感の充実を図り、共に喜び合うことが出来ている。

## (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、99%であった。

引き続き、入退所の対応、調整をスムーズに行うことで、空床期間の短縮に努める。また、地域の関係機関の協力を頂きながら施設のPRを実施していく。

## 10. グループホーム杵が森

### (1) 事業報告

- 重点目標である笑顔での挨拶に関しては、利用者への挨拶、職員同士の挨拶共に良く出来ている。
- 職員として働く上での目配り、配慮、気遣いを心掛け、些細なことにも一人ひとりが気付くことが出来るよう指導することで、役割を自覚し、積極的に働くことが出来る職員を育てることが出来た。
- 一日の業務以外にも目を配り、日頃の業務のやり方を見直すことで、作業の効率化を図ることが出来た。
- 庭や花壇等、美化作業の場所を各職員へ割り当てることで、それぞれの職員が自ら考えて美化作業へ取り組むことが出来るようになった。冬期間は、玄関先の雪はもちろん、垣根の上の雪下ろし等を実施し、施設全体が綺麗で長持ちするような取り組みを実施している。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、96.3%であった。

年間を通して高い稼働を維持することが出来たが、更なる空床期間の短縮の為に、各関係機関への働きかけ、早期の実態調査を実施する。

## 11. グループホーム西会津しょうぶ苑 桐

### (1) 事業報告

- 日々の変化に対応する認知症ケアを実践しながら何度もカンファレンスを行い、考え方や接し方を養った。職員体制が新しくなり間もない為、利用者に対する関わり方をチームで考えながら認知症ケアとは何かを深めていく。
- 地域交流に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により積極的に実施することが出来なかった。地域交流が出来なかった分、事業所内で出来るレクリエーションを工夫しながら実施してきた。
- 関係機関と接する機会が少なかつた中でも、出来る限りの情報収集を行い稼働の安定を図った。引き続き、関係機関との相談、申込時に積極的にアプローチすることで申

込件数を増やし、稼働の安定を図る。

- 重点目標である利用者や家族と施設担当者との信頼関係を深めていけるような取り組みに関しては、担当者が変化点等を電話にて確認することはあったが、利用者本人を知る為の情報確認までは出来ず、関係を深める取り組みにまでは至っていない。

## (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、97.7%であった。

令和2年度は、入所3名、退所2名と出入りの多い年であった。その中で、最低8名の利用者を確保しつつ、満床状態の維持に努めた。

## 12. グループホーム西会津しょうぶ苑 おとめゆり

### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、認知症カフェを開催することが出来なかった。感染症拡大の状況を注視しながら、状況が落ち着き次第すぐに開催出来る準備を整える。
- 自己学習や研修で学んだ承認力について、現場で職員一人ひとりに対して実践することが出来ている。実践している中で、職員との関わる時間をどれだけ多く確保出来るかが課題であると感じている。令和3年度は、関わる時間の確保を意識して積極的にコミュニケーションを図る。
- 10月後半に職員1名が欠員となったが、少ない人数の中で団結して業務に取り組むことが出来るようストレスの緩和と雰囲気づくりに取り組んだ。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、町の会議は中止となっている。情報の交換は書面や電話にて行っているが、積極的な情報収集の為にもコロナ禍の中でも出来ることを一つ一つ増やしていかなければならない。
- 全体的に利用者の介護度が高くなってきている。見守りや介助の必要性が増えた分、事故防止の意識を高めて業務に取り組んだ。いつ急変してもおかしくないという現状をもう一度職員全員が理解し、緊急対応マニュアルを身に付けることが課題である。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、99.3%であった。

問合せに対し、スムーズに申込に繋げることが出来ている。また、定期的に申込の問合せがあり、申込者数が少しずつではあるが増えてきている。関係機関と連携し、申込者を増やす取り組みを継続する。

### 13. グループホーム夢の森

#### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、認知症カフェをはじめ、地域のボランティア等が全て中止となってしまった。状況が落ち着き次第すぐに再開出来る準備を整える。
- 近隣の居宅介護支援事業所、各包括支援センター、地域福祉連携室と空き状況等について情報を共有し、新規利用者の入所へ繋げることが出来た。引き続き、情報を共有し、新規利用者の獲得に繋げる。
- 職員からの相談や業務の中で改善して欲しいことについて、その都度話をすることが出来ている。また、判断の難しい案件に関しては、早い段階で相談し、改善策を立てることでトラブルを未然に防ぐことが出来た。引き続き、職員相談に応じ、トラブル、離職を未然に防ぎ、働きがいのある職場づくりに努める。

#### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、98.6%であった。

他の施設への入所が決定した段階で、待機者、ケアマネージャーへ連絡、入所の意向を確認することで、スムーズな入所へ繋げることが出来た。

### 14. グループホームひびき

#### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域の方との交流が難しく、認知症カフェ等を開催することが出来なかった。引き続き、新型コロナウイルス感染症防止に努め、行政、区長等と連携を図っていく。
- 包括支援センターや居宅介護事業所のケアマネージャーへ定期的に連絡を行い、空き状況や入所の紹介の情報交換に努めている。引き続き、各関係機関との連絡を密にし、情報の共有と良好な関係性を構築し、稼働の安定化を図る。
- 働きやすい環境の構築に努めてきたが、退職者が2名（内、派遣1名）出てしまった。面談の機会を設けてきたが、退職となってしまった。職員の相談に応じ、話や悩みを言いやすい環境づくりに取り組み、働きがいのある職場の構築に努める。また、新人職員の育成に力を入れ、一人ひとりの課題に合わせたスキルアップが出来る体制を構築する。

#### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、90.2%であった。

待機者や利用希望者がいなく、職員の不足によりスムーズな入所受入れが出来な

かった。早急に職員体制を整え、新規利用者の受入れを行う。また、退所者が出た場合は、早い段階での実態調査を実施し、空床期間の短縮に努める。

## 15. 『至福の郷』グループホーム東町

### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外部との積極的な交流を実施することが出来なかった。今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことが予想される為、感染症対策を徹底した上で、外部との交流が出来る方法を検討していかなければならない。
- 各居宅介護事業所や施設間での連携を図ることで、空床発生時にすぐに実態調査等へ移行することが出来た。引き続き、各関係機関との連携を密にし、稼働の安定に努める。
- 重点目標であった職場環境の改善、働きやすい、働きがいのある職場づくりに関しては、職場では常に笑い合う雰囲気をつくることで、楽しく仕事に取り組むことが出来ている。職員の長所を伸ばすことが出来るよう声掛けを行い、注意する点に関しては、その都度指導し、慣れ合いにならないよう取り組んでいく。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、97.2%であった。

退所予定者が出た際に、早い段階での実態調査を行い対応することが出来た。また、申込者を増やすことが出来ている。引き続き、早い段階での新規利用者の選定を行い、空床期間の短縮に努める。

## 16. 小規模多機能型居宅介護事業所 西会津しょうぶ苑

### (1) 事業報告

- 利用者の生活状況や家族状況に応じて、柔軟にサービスを変更し対応することが出来た。送迎時や電話連絡等で、こまめに家族とコミュニケーションを取ることで、良好な関係を保つことが出来ている。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、家族と相談しながらのサービス調整を行った。
- 職員、利用者共に日々の健康管理を行い、室温・湿度の調整、換気を行い、手洗い、うがいの徹底を呼び掛けた。引き続き、職員が感染症を持ち込まないよう周知徹底し、予防に努める。
- 職員の不満等に対して、その都度対応するよう心掛けたが、まだまだ足りない部分も大かったと感じている。重点目標の職員一人ひとりの役割の意識付けに関しては、人

事考課の面談を通して伝えることが出来ている。また、日々の観察力を身に付ける為の観察記録をつけている。

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域行事、イベントが中止となり、苑外活動も自粛している。地域の方との直接の交流は難しい状況であるが、定期的に連絡を取り、関係性の継続に努めなければならない。

## (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、88.3%であった。

各関係機関への働きかけにより、相談件数が増えてきてはいるが、目標を達成することは出来なかった。ショートステイに関しては、サービスの提案を行うことで利用率が増えてきており、現在の利用平均は5名である。利用の相談があった際には、実態調査を早期に行い、登録に繋げることが出来た。

## 17. 小規模多機能型居宅介護事業所 やわらぎ

### (1) 事業報告

- 毎日ミーティングを行い、進行状況の確認を行った。困難なケースに関しては、管理者が連絡調整を行い、ケアマネージャーや職員と共有した。送迎時には、サービス状況の確認や職員の対応についての話を伺い、満足して頂いている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域のイベントへ直接参加することは出来なかったが、いずみ幼稚園とプレゼント交換を行う等、今までにない交流を実施することが出来た。
- 事業所内研修は、4月に策定した年間計画通りに進めることが出来なかったが、その時に必要な研修に切り替えながら柔軟に実施することが出来た。事業所内研修を継続して実施する為にも、講師を担当する職員の指導が今後の課題である。
- 毎月、火災、水害、地震を想定しての避難訓練を実施した。消防署立ち会いの避難訓練では、アドバイスを頂くことが出来たので、アドバイスを活かし、次回の夜間想定避難訓練を計画する。
- 毎日のミーティングで利用者の状況を細かく共有し、リスクマネジメントを行った。マニュアルを作成し、職員間で共有することで事故防止に努めている。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、88.9%であった。

11月から登録終了者が続き、職員の異動、退職が重なったことで、目標を達成することが出来なかった。職員体制を整え、早期に新規利用者の受入れを実施する。また、利用調整を的確に実施し、即日利用に対応出来る体制を整える。

## 18. 喜多方市慶徳デイサービスセンター

### (1) 事業報告

- モニタリング後、職員間で次回の目標設定時に必要な情報を交換する為、終礼の時間を使えるよう送迎の便を増やしたが、時間を上手く活用することが出来なかった。利用人数が少ない曜日の16:45~17:00までの間で時間を確保し、利用者の情報交換、目標設定を行う。
- 重点目標である職員間で情報を共有し、家族や利用者が相談しやすい環境づくりに関しては、申送り簿を活用し、情報の周知が来ている。引き続き、相談しやすい環境づくりに努める。
- 利用者の状態を把握し、残存機能維持の為のリハビリ、レク等を提案してきたが、利用者の細かい変化等について、職員全体での把握をすることが出来なかった。一部の職員のみが知っている情報にしない為にも一日のリーダーの役割を活かし、情報の収集、周知を行わなければならない。
- 業務の簡素化や取り組みやすい環境、作業しやすい動線づくりを行い、余裕を持つことが出来るよう工夫したが、実際にはほとんど時間を確保することが出来なかった。引き続き、見直しが必要なところは職員全体で話し合いながら改善し、余裕を持って日々の業務を遂行する。
- 職員一人ひとりに合わせて個人のペースを大事にしつつステップアップしやすい環境づくりに取り組んできたが、個別面談の時間を十分に確保することが出来ず、環境の向上にまでは至らなかった。また、稼働が上がることで、一定の職員に負担を大きく掛けてしまった。

### (2) 経営管理に関する報告

年間を通しての稼働率は、72.4%であった。

下期は、稼働率が85%を越える時もあり、目標である70%以上を維持することが出来た。稼働の維持の為、毎日の目標利用人数を11名以上とし、ショートステイ併用の方の利用が減ることを考慮した人数の確保が来ている。

## 19. 居宅介護支援センターのぞみ

### (1) 事業報告

- 重点目標である相談窓口として充実した体制づくりに関しては、相談受付表に沿って確認し、誰でも相談対応出来る体制を整えた。受付後は、居宅内で相談し、担当者を決めてからの連絡調整を実施している。
- 1月、2月に法人内2名、法人外1名の実習生3名の受入れを実施した。引き続き、実習生の受入れがあれば積極的に受入れ、ケアマネージャー同士のネットワークを拡

げていく。また、事例検討会についても、コロナ禍の為、少人数で開催した。

- 研修に関しては、新型コロナウイルス感染防止対策による人数制限がある為、代表者が受講し、事業所内で伝達講習を実施した。外部研修への参加が難しい中ではあるが、専門職としての質の向上を図る為、状況に合わせた研修を継続する。
- 特定事業所内加算要件を満たす為の対応や、ケアマネジメント業務等については、問題無く実施出来ている。引き続き、あらゆるケースへ対応し、地域との連携を図る。

## **(2) 経営管理に関する報告**

包括支援センターからの依頼が増えており、包括全体で15件、内、塩川包括からの相談が10件あった。また、地域福祉連携室からの相談も4件あり、目標件数には届いていないが、件数は徐々に増えてきている。新規の依頼に対しては、出来る限り対応し、各関係機関との連携を図りながら利用者の増加に繋げ、目標件数の達成を目指す。

## **20. 地域福祉連携室**

### **(1) 事業報告**

- 介護事業の大規模化により生じる様々な事態に対し、適正な事業運営を行う為の法人内外との連携・調整を行った。
- 施設選定に迷うケースや直近での入所が必要なケースの相談がほとんどであるが、対応可能な複数の施設との情報共有と連携にて、法人内で受入れることが出来ている。
- 各施設で受付したケースについて、様々な事情から対応出来ないケースを連携室へ繋いでもらい、連携室から対応可能な施設へ案内することで法人内の施設へ繋げることが出来ている。
- 入澤病院の外来患者への相談対応についての依頼もある。入澤病院と連携を取り、随時相談を受け付けることで、状態に合った適切な施設への紹介を行うことが出来ている。引き続き、高齢者に必要な医療・介護サービスを継続して提供出来るよう対応していく。

### **(2) 経営管理に関する報告**

稼働率の低下、申込者数の減少がみられる施設に重点を置いた訪問営業を実施したところ、訪問先からの申込みが増えてきている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、積極的な訪問営業活動を行うことが出来なかった期間については、電話での営業を行った。年間を通しての申込みは、55件であった。

稼働状況や施設の概要について把握した上で、営業先を定期的に訪問しつつ、各事業所等の担当窓口との関係性を構築し、新規の依頼に繋げていく。

### Ⅲ 経営管理に関する報告

#### ○高齢福祉部全体

新型コロナウイルス感染症拡大により、実態調査の受入れ制限、サービスの利用控え等の影響があった。そのような影響を受けた中でも、全体の年間平均稼働率は90.1%であり、前年度の86.7%を上回ることが出来た。引き続き、感染症対策を徹底した上での稼働の確保に努める。

#### ○特別養護老人ホーム ※けいわ苑は、年間を通して110床での計算

3特養全体で年間平均稼働率95%を下回らない目標としたが、昨年度より4.3%高い95.4%と前年度を大幅に上回り、目標を達成することが出来た。しょうぶ苑従来型95.9%、ユニット型97.6%、けいわ苑93.2%、いちょうの木98.8%であった。大きな課題であった未稼働部分のけいわ苑の10床を令和2年10月に開所したことで、特養全体での目標を達成することが出来た。

#### ○グループホーム（新規事業所である夢の森、ひびき、『至福の郷』含む）

昨年度よりも0.4%高い年間平均稼働率96.7%であった。西会津おとめゆり99.3%、東山しょうぶ苑99%と高稼働を維持出来た。全体的には昨年同様、高い稼働を維持することが出来ているが、西会津町、会津坂下町、湯川村、山都町においては、年々申込者が減少している。施設のPRを強化し、新規申込者の確保が今後の課題である。

#### ○小規模多機能型居宅介護事業所

やわらぎ88.9%(前年比-1.4%)、西会津しょうぶ苑88.3%(前年比+7.2%)の年間平均稼働率であり、共に目標を達成することが出来なかった。目標には届いていないが、サービスの提案、調整を行うことでショートステイの利用率が上がってきている。引き続き、利用時間、曜日の調整を行い、更なる利用回数の増に努める。また、全体の要介護度のバランスを考慮した受入れを行い、収支の確保に努める。

#### ○通所介護・短期生活入所事業所

しょうぶ苑デイサービスセンター72%(前年比-2%)、慶徳デイサービスセンター72.4%(前年比+7.8%)、短期入所いちょうの木36.3%(前年比-5.3%)の年間平均稼働率であり、各事業所が目標を達成することが出来なかった。通所系に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用控えもあり、稼働の低下に繋がってしまった。けいわ苑のショートステイに関しては、ニーズが少ないと判断し、令和4年4月に10床を本入所へ転換する。

#### ○新規事業所

医療法人社団日新会の介護事業を統合・吸収したことにより加わった6事業所（介護医療院いりさわ、医療機関併設型小規模介護老人保健施設ハートランドケア東町、介護付有料老人ホームハートランドケア東町、グループホーム夢の森、グループホームひびき、『至福の郷』グループホーム東町）に関しては、ほぼ計画通りであった。事業統合に伴い新設した「地域福祉連携室」も期待通りの役割を果たすことが出来た。

【令和2年度稼働実績】

事業所名	予算	令和 元年度	令和 2年度	事業所名	予算	令和 元年度	令和 2年度
しょうぶ苑 (従来型)	93.0%	92.3%	95.9%	あじさい	91.3%	94.1%	92.9%
しょうぶ苑 (ユニット)	98.5%	94.1%	97.6%	東山しょうぶ苑	100%	97.8%	99.0%
<b>しょうぶ苑 計</b>	<b>95.3%</b>	<b>93.1%</b>	<b>96.6%</b>	夢の森	99.0%	-	98.6%
けいわ苑	92.5%	87.3%	93.2%	ひびき	86.0%	-	90.2%
いちようの木	98.9%	97.6%	98.8%	『至福の郷』 グループホーム東町	95.9%	-	97.2%
<b>特別養護老人 ホーム 計</b>	<b>94.5%</b>	<b>91.1%</b>	<b>95.4%</b>	<b>グループホーム 計</b>	<b>96.3%</b>	<b>96.3%</b>	<b>96.7%</b>
介護医療院 いりさわ	94.6%	-	93.5%	小規模多機能 西会津	88.0%	81.1%	88.3%
ハートランド東町 (老健)	93.5%	-	94.0%	小規模多機能 やわらぎ	84.3%	90.3%	88.9%
ハートランド東町 (有老)	98.1%	-	95.7%	慶徳 デイサービス	72.9%	64.6%	72.4%
杵が森	99.5%	98.1%	96.3%	しょうぶ苑 デイサービス	72.4%	74.0%	72.0%
やわらぎ	98.9%	99.4%	98.6%	いちようの木 ショートステイ	39.4%	41.6%	36.3%
西会津 桐	96.3%	89.4%	97.7%	高齢福祉部 計	89.8%	86.7%	90.1%
西会津 おとめゆり	100%	99.0%	99.3%				

※予算稼働率は、第三次補正予算作成時の稼働率。

けいわ苑の数値は、令和元年度、令和2年度ともに110床に対する稼働率。令和2年9月末までは、100床での運営の為、稼働率が低くなる。

## 《児童福祉部事業報告》

### I 児童福祉部の事業総括

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症からこどもの命を守る、安全・安心の保育を行うことが重要課題であり、対策に終始した。

新型コロナウイルス感染症予防対策は、初期段階では手探り状態であったが、行政や法人本部等々からの情報収集により、具体的な予防対策が分かってきている。園内職員による「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を結成し、各種情報の収集、感染予防対策の見直しを常時実施し、全職員が「児童福祉部感染症予防マニュアル」の熟知に努めた。また、各種生活様式等の制限の中でも園児が不安にならないよう配慮している。

引き続き、新しい情報を基に対策をマニュアル化し、4園で対策を考え、共有することで安全・安心な保育に努める。

#### (2) 子ども主体の丁寧な保育

各園の行事を中止や簡素化する等、創意工夫に努め実施し、感染予防を徹底している。コロナ禍において保育での行動制限があるが、保育理念である“ひとりひとりを大切に”に基づき、園児の主体性を基本とする保育実践を進めた。

#### (3) 保護者支援

コロナ禍での行事の自粛等により、保護者が園に来る機会が無くなり、こども達の園での生活が全く見えなくなってしまった。このような状況が続く中で、こどもの姿を写真の掲示や動画等を用いて、少しでも保護者が安心出来るよう、今まで以上の発信を行った。また、保護者の不安を出来るだけ解消する為、心に寄り添う支援を実践することで、保護者からの信頼や協力を得ることが出来た。

#### (4) 園からの情報の発信と地域との連携の強化

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、地域住民との繋がりである「子育て支援事業」「一時保育事業」等々の利用が減少した。保育園が感染防止に努めており、安全・安心な保育を行っていることを地域に理解して頂けるような情報の発信が必要である。

#### (5) 人材育成と研修の重視

コロナ禍により外部の職員研修会が中止となり、学ぶ機会が減ってしまった。各園の状況に応じ、三密を避け、少人数での自主研修を実施した。

## (6) 職員間のチームワークの強化

保育方法の変更（朝夕の受入れ態勢等）を実施する上で、職員の共通理解のもと、円滑に対応を行った。また、コロナ禍での保育の在り方から保育の視点をこどもに向けることで、一人ひとりの意識から園全体のチームワークへと繋がり、新たなスタイルでの保育を深めることが出来た。

## II 各事業所事業報告

### 1. 東町のびやか保育園

#### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各園との交流や勉強会等を実施することが出来なかった。コロナ禍の中でも工夫し、各園との交流を図りながら保育の質の向上に努めていかなければならない。
- 園内で出来ることとして、各年齢の遊び、遊具についてそれぞれが調べ、学んだことを毎月、研究発表として行い、職員同士でモチベーションを上げながら保育の質を高めてきた。『のびやか保育園が大切にしていること』を冊子として作成した。
- 今までは、各クラスの課題と現状の共有をリーダーと行ってきたが、令和2年度は、フリー補助も交えて実施した。結果、問題解決にも繋げることが出来、引き続き実施していく。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、小学校との連携が難しく、参観を行うことが出来なかった。園と保護者が同じ意識を持てるよう、小学校までに育てたい力を、具体的な発達内容を基に確認してきた。

#### (2) 経営管理に関する報告

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一時保育利用数が例年より約300人減少した。補助金にも影響してくる為、子育て支援センターの土曜日利用時間を増やし、補助金申請を行った。また、産休・育休復帰を見通し、計画的に0歳児の途中入所を受入れた。

新型コロナウイルス感染症対策として、全職員が感染症対策マニュアルを確認し、共通理解を行った。保護者に対しては、感染症対策の協力依頼のおたよりを作成し、配布した。

## 2. 東町さつき保育園

### (1) 事業報告

- 園児も保護者も安心出来るような心温まる園を目指し、小規模ならではの良さを発揮し、きめ細やかな保育を実践した。
- 新型コロナウイルス感染症拡大状況に合った対策を実施し、子の安全を第一に考えながらも安定した入所調整の工夫を行った。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学びの機会が少なくなってしまう。オンライン研修等のコロナ禍の中でも出来ることを増やし、専門知識の向上に努めていく。

### (2) 経営管理に関する報告

令和2年度は、途中入園児（事業所内）が多く、途中で0歳児が増えた。乳児が増えることで、職員同士の連携を大切にし、限られたスペースを工夫することで、安心して生活出来るよう配慮した。

途中入園児は、年度によってばらつきがある為、事業所内の途中入園児の利用状況によっては、地域待機児童の受入れも実施していく。

## 3. ひめさゆり保育園

### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染予防対策に重点を置きながら、行事の在り方や新しい生活様式の中での保育を日々考えながら実践した。今までとは全く違う方法を取り入れる中で、プラスに転換出来ることも多くあり、視点を変えることの大切さを学ぶことが出来た。
- 乳児保育に関しては、少人数のメリットを活かし、こども一人ひとりとの信頼関係を構築し、丁寧な保育を実践することが出来た。
- 重点目標である保育の基礎や、やりがいとなる部分の育成に関しては、疑問点や不安等についてその都度対応し、それぞれの職員の立場を考慮しての助言、指導を実施した。結果として、新人に限らず、やりがいを見つけて業務を遂行することが出来ている。

### (2) 経営管理に関する報告

市内からの入園希望者（0歳児）が多かった。年度切替え時の3歳児の転園があることで、3、4、5歳児のバランスが難しい。乳児、幼児のバランスは大幅に変わらない為、その年毎に検討していく。

#### 4. 塩川のびやか保育園

##### (1) 事業報告

- 新型コロナウイルス感染症の感染や感染拡大を防ぎ、とにかく安全・安心の保育に努めてきた。園内職員による「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を結成し、各種情報収集や感染予防対策の見直しを常時実施した。全職員が児童福祉部感染症予防マニュアルの熟知に努めた。
- 新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、各種生活様式の変更や制限があっても、園児が不安にならないよう職員が配慮した。
- 全ての行事を見直し、感染症予防に注意して中止や簡素化を図った。行動に制限がある中でも園児の主体性を育むことを大切に考えた。各種行事の簡素化の中から、園児の主体性を最優先する大切さを学ぶことが出来た。
- 人材育成と研修の重視を重点目標としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外部研修を受講することが出来なかった。令和3年度は、オンライン研修への参加の検討や、少人数による自主的研修の企画を行い、新様式での研修の開催等、出来ることを一つずつ増やしていく。

##### (2) 経営管理に関する報告

8月より0歳児2名の入所を受入れた。子育て支援事業や一時保育に関しては、上半期は参加者、利用者が少なかったが、下半期後半からは増えてきており感染症予防マニュアルに従って利用して頂いている。支援での行事を企画・宣伝し、継続することに重点を置いている。

令和3年度も定員を超過してのスタートとなるが、安全・安心の保育を心掛け、地域からの信頼関係を継続する。また、地域の人々に子育て支援や一時保育の宣伝を行い、情報を提供し、園のPRを実施する。

#### Ⅲ 経営管理に関する報告

<待機児童解消への取り組みについて>

- 令和2年度も東町のびやか保育園、塩川のびやか保育園共に市の待機児童解消に協力し、定員をオーバーしての園児を受入れた。経営の安定を図る為にも年齢のバランスを考慮した受入れ、職員の体制を整えることが今後の課題である。

<安心して働ける職場について>

- 令和2年度の離職率は16.7%、前年度は6.3%であり、離職率が高くなってしまった。離職率は高かったが、離職者の中には、結婚や家庭の事情、体調不良等、仕方の無い理由での離職者も多かった。職員が長く働くことが出来ることが、保育の質の向上に繋がる。地域から信頼され、入所希望児が増えることでの経営安定を目指す為にも安心して長く働くことが出来る職場づくりに努めなければならない。

## 《障がい福祉部事業報告》

### I 障がい福祉部の事業総括

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症から利用者、職員を守り、安全・安心なサービスを提供する為、感染症対策を徹底した。具体的な取り組みとしては、定期的な換気、消毒（施設・車内）、パーテーションの設置、利用者及び職員の検温、利用者及び家族への注意喚起等を実施した。

#### (2) 事業所毎に計画した重点目標に基づいての行動

3事業所毎に計画した重点目標に基づき、感染対策を徹底した上で、利用者が安全・安心で健康的に生活することが出来るよう、利用者個々に応じたサービスの提供に努めた。引き続き、感染症対策を徹底した上でのサービスの提供に努める。

#### (3) 地域社会に開かれた施設整備

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、関係機関や他事業所との連携、協働する機会が限られてしまった。コロナ禍の中でも、感染症対策を徹底した上で、地域の障がい者等へ福祉ニーズの機会の提供を目指して取り組んだ。

#### (4) 利用者及び職員が安心出来る環境整備

職員会議で利用者の支援法、問題点、課題の抽出、検討を行い、職員間での情報共有を図った。一人ひとりを尊重しながらサービスを受ける側、支援する側の環境整備に努め、研修、会議に積極的に参加することで、専門性の向上を目指している。

#### (5) サービス提供の見直し

障がい福祉サービス事業所 Mamiya プリムローズでサービス提供していた自立訓練を令和2年度末に廃止し、令和3年度より就労継続支援B型へ転換する。

自立訓練に関しては、直近2年間の稼働率が約16%から20%の間で推移していた。市町村への情報収集や情報開示を継続的に実施したが、結果として利用者を獲得することが出来なかった。そこで、ニーズの高い就労継続支援B型へ転換し、定員を6名増やすことで、更なるニーズに応じていく。

## II 各事業所事業報告

### 1. 障がい福祉サービス事業所 Mamiya つどいの家

- 定期的なカンファレンス、職員会議を通して、利用者の情報共有を行うと共に、業務内容の変更を行った。家族、関係機関との連携を図り、サービスの安定化、信頼関係を構築することで、利用者の確保、増加を図る。
- 新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、養護支援学校を中心に内覧会や見学会を実施した。施設の特徴をしっかりと伝え、営業を行うことが出来ている。また、定期的に広報誌を作成し、活動内容の報告と空き情報を関係機関へ伝え、営業活動を実施する。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年通りのイベントは自粛中である。コロナ禍の中でも感染対策を徹底した上で、季節行事、成人式等を実施することが出来た。引き続き、四季を大切にし、可能な限り行事、イベントを開催していく。
- 継続的に介護技術を含む勉強会を開催した。職員の能力に合わせ、個別指導やチェックシートの作成等を行った。利用者から徐々に改善傾向にあるとの声が聞かれるが、引き続き、職員が統一した対応が出来るよう安全・安心な環境づくり、職場の安定を図る。
- 重点目標である現状の施設環境や条件を検証することで、快適に過ごすことが出来る施設づくりに関しては、コロナ禍の中で、出来る範囲で対応している。引き続き、会議を通して職員間で話し合いを行い、働きやすい職場環境づくりを目指す。

### 2. 障がい福祉サービス事業所 Mamiya プリムローズ（従たる事業所エーコード含む）

- 利用者が安心して施設生活を送ることが出来るような相談援助、愛護的な関わり方を実施した。更に職員の専門性、人間性を高める為、自ら考え施設独自の支援勉強会や個別ケース会議を開催する。
- コロナ禍の中、施設内面積を考慮し、稼働率を意識しながら新規利用者を獲得している。関係機関への情報公開や、相談支援員との関わりを主に情報交換出来ている。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上での新規利用者の獲得を検討していく。また、各機関への情報の開示、広報誌等を利用しての活動を実施する。
- 利用者の技術向上を目指し、下請け作業に関わる工程と一緒に学習している。また、新規で下請けの依頼があり、単価交渉や現地工場への視察を実施した。コロナ禍により各種販売会の職員参加型は自粛中の為、インターネット販売を強化し、福島県授産事業振興会の活用、常設販売商品を定期的に納品している。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、地域行事への参加は、自粛している。感染症対策を徹底した上で、施設内で新年会、節分、ひなまつり、七夕、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、お誕生日会等、季節感を感じる事が出来る行事を実施した。

### 3. 障がい相談支援事業所 Mamiya プリムローズ

- 登録人数は、近隣事業所の閉鎖による利用者を引き受けたことにより9名から27名へと増加した。目標の達成に向けて、各関係機関や各事業所との連携を図り、人脈を広げることで登録者の確保に努める。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、会議や研修が中止となっている中ではあるが、感染症対策を徹底した上で、積極的に情報収集を行った。

### III 経営管理に関する報告

- 障がい福祉サービス事業所 Mamiya つどいの家については、稼働率70%を目標としたが、年間平均稼働率は54.4%であり、目標を達成することが出来なかった。  
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各施設が独自に利用を自粛するケースが目立った。また、精神疾患の利用者を中心に、ショート利用や入院があり、稼働が上がらず目標を達成することが出来なかった。コロナ禍の中ではあるが、サービスの質の安定を図り、今まで以上に関係機関との連携を強化し、利用者の満足度のアップを図ることで稼働の安定を目指す。  
また、早番から遅番の交代勤務とし、多方面への送迎を可能とすることで、1日の登録利用者数平均15名を目指す。

- 障がい福祉サービス事業所 Mamiya プリムローズについては、就労継続支援B型（エーコード含む）の目標稼働率を86%としたが、年間平均稼働率は80.2%であり、目標を達成することが出来なかった。新型コロナウイルス感染症の影響は、今後も続くことが予想される為、現在通所している利用者の利用日数増加等を検討し、稼働の安定を図らなければならない。  
就労継続支援B型に関しては、年々高稼働を維持しており、平均工賃額も上がってきている。しかし、一人当たりの月額平均工賃額は5,540円であり、福島県の月額平均工賃額14,926円にはまだ届かない状況である。価格帯の検討、季節感、年齢層の情報収集等、商品の販売戦略を練り、更に外部就労を取り入れることでの工賃アップを図っていく。

#### 【令和2年度稼働実績】

事業所名	予算	令和元年度稼働率	令和2年度稼働率
Mamiya つどいの家	80.0%	58.4%	54.4%
Mamiya プリムローズ 就労B型	107.1%	112.3%	109.3%
Mamiya プリムローズ 自立訓練	33.3%	20.9%	13.0%
エーコード 就労B型	46.0%	45.3%	39.6%
障がい福祉部 計	66.6%	59.2%	54.1%

※予算稼働率は、第三次補正予算作成時の稼働率。